石川県松任市

中相川遺跡

1998

石川県立埋蔵文化財センター

石川県松任市

中相川遺跡

1998

石川県立埋蔵文化財センター

例　言

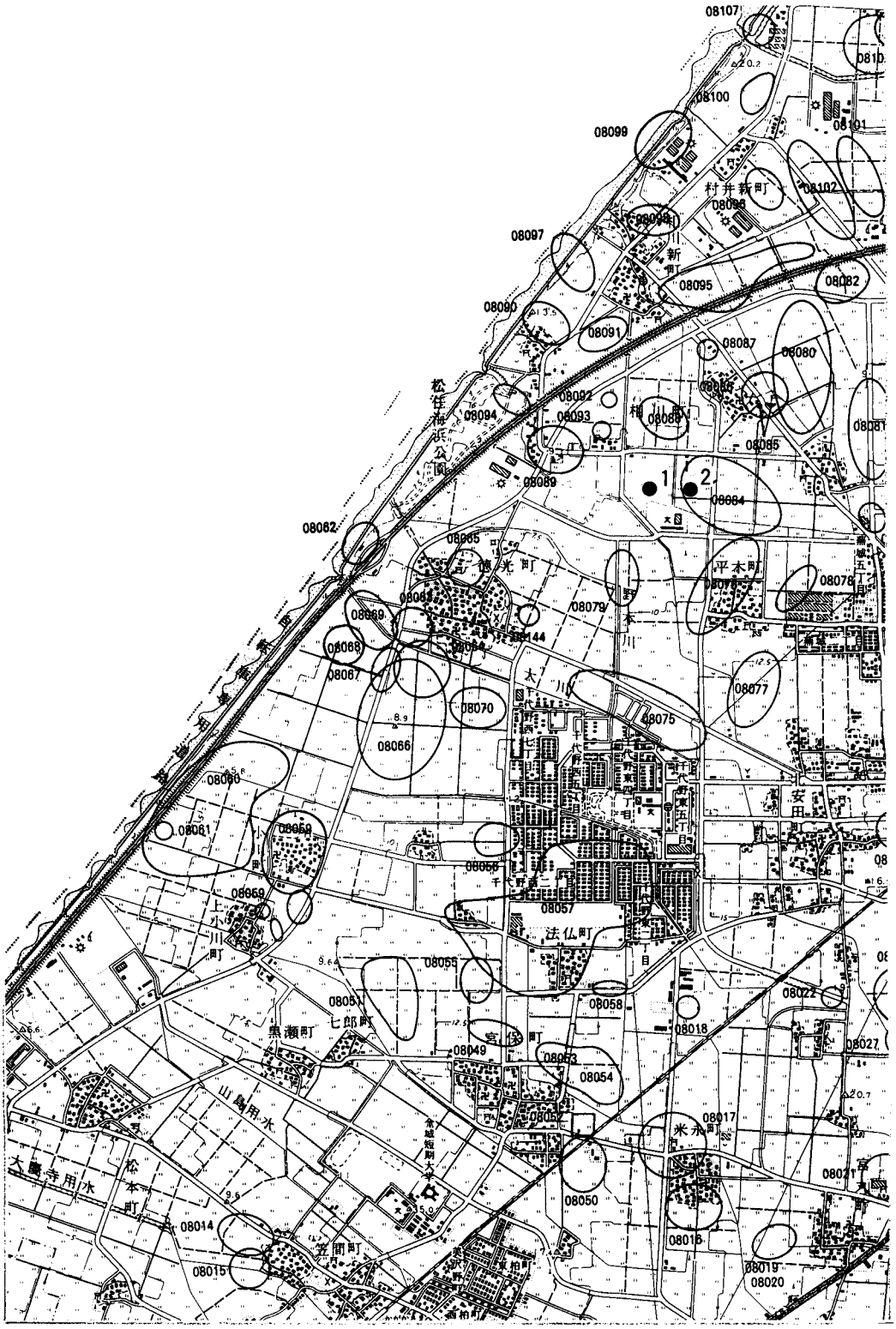
1　本書は、石川県松任市中相川に所在する中相川遺跡の発掘調査報告である。

2　本調査は、県営圃場整備事業御手洗・出城地区の実施に係る緊急調査である。

3　調査は昭和62年７月28日～10月29日かけて実施した。担当者は第一次調査が小嶋芳孝、第二次調査は担当者は藤田邦雄である。

4　第一次調査の報告は小嶋が、第二次調査の報告は藤田がそれぞれ担当した。

第１図　松任市の位置



●1は第1次調査区　●2は第2次調査区

第2図　中相川遺跡の位置

中相川遺跡1987年度第一次調査区の概要

この年度の第一次調査は、松任市立北陽中学校の北側圃場で実施した。７月23日に現地で松任土地改良事務所と打ち合せを行い、７月27日（火曜日）～29日（木曜日）の三日間にわたって調査を実施した。

調査区は松任市立北陽中学校の北側の圃場で、標高約8.6ｍの手取扇状地先端部に位置している。調査は排水路に限定して実施し、幅２ｍ・延長約80ｍの約160㎡について行った。遺構は溝状遺構と小穴を検出し、時期不詳の土器片が少量出土している。

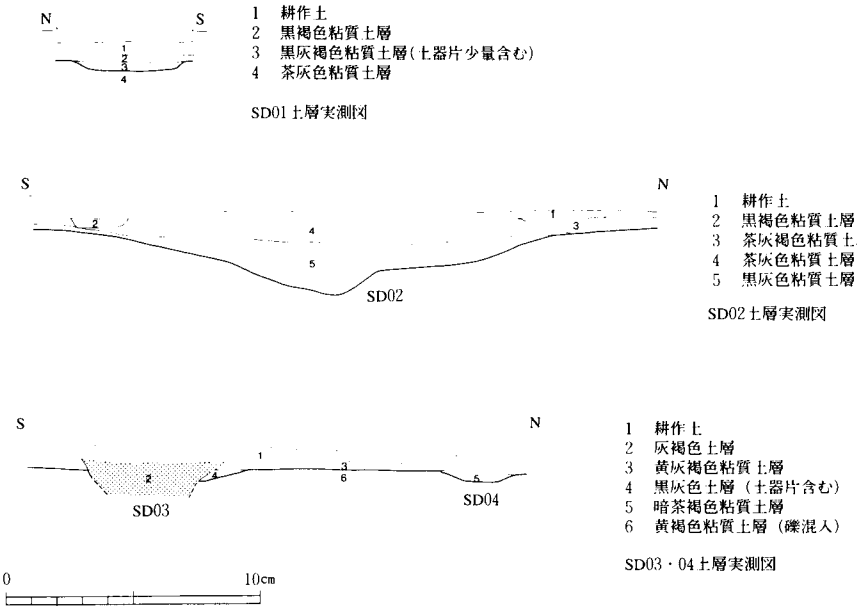
SD01　幅120cm・深さ約15cmの東西方向に走る溝状遺構。覆土は黒灰褐色粘質土で、時期不詳の赤色土器片が少量出土している。

SD02　幅約８ｍ・最深部が約90cmの、東西方向に走る溝状遺構。自然の鞍部の可能性もある。覆土は黒灰褐色粘質土で、時期不詳の赤色土器片が少量出土している。溝の北側落込み覆土上面から時期不詳の赤色土器片が少量出土している。

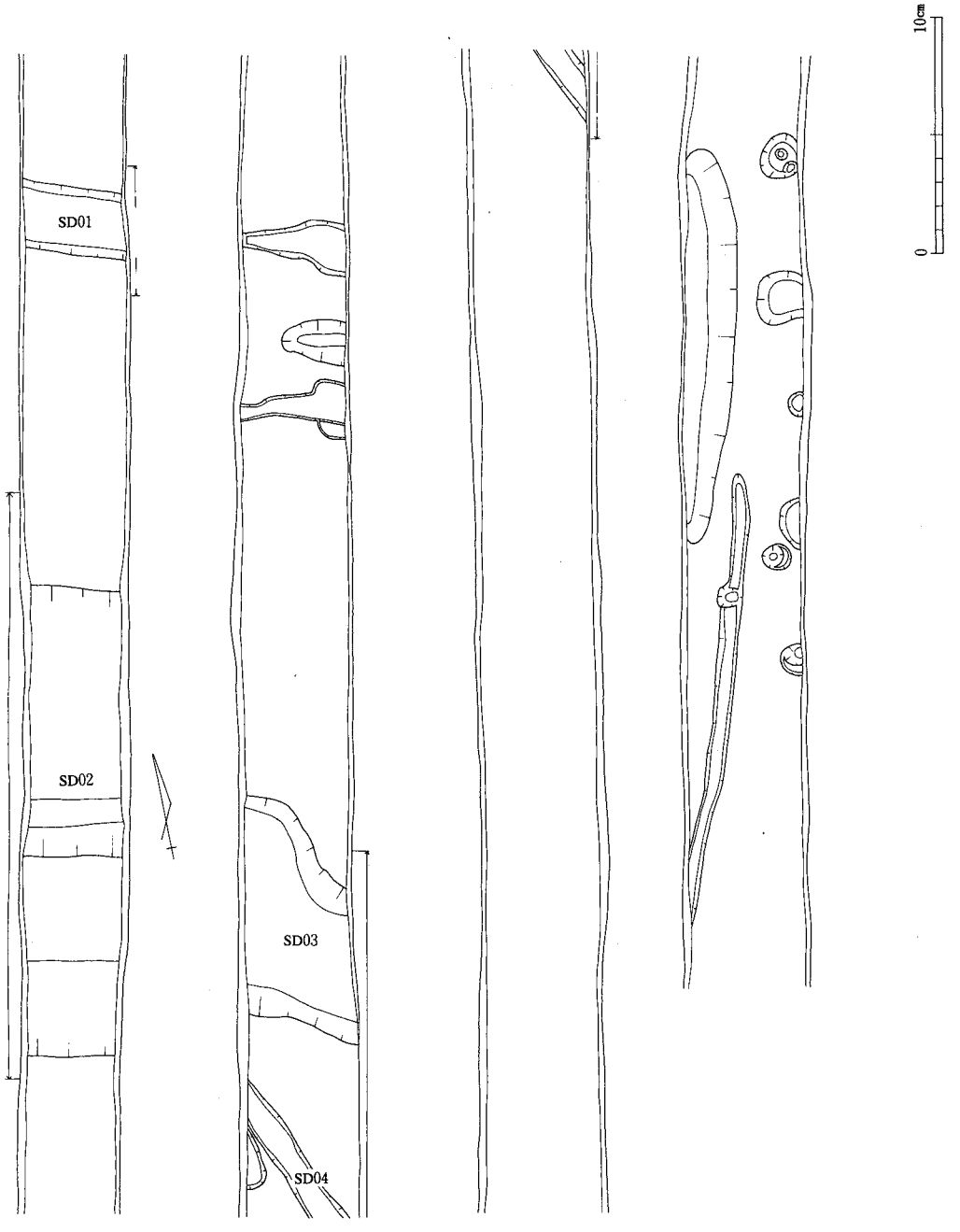
SD03　幅約２ｍ・深さ60cm以上の、東西方向に走る溝。黒灰色土を覆土に持った溝状遺構に、礫を大量に含んだ灰色土を覆土とする溝が重複している。黒灰色土の溝から、時期不詳の赤色土器片が少量出土している。

SD04　幅約120cm・深さ約15cmの、南東から北西に走る溝状遺構。覆土は、暗茶褐色粘質土である。

この調査区の東側では弥生後期の遺跡が検出されており、今回の調査区はその西側の縁辺部に当たるものと思われる。



第３図　1987年度第１次調査区土層実測図



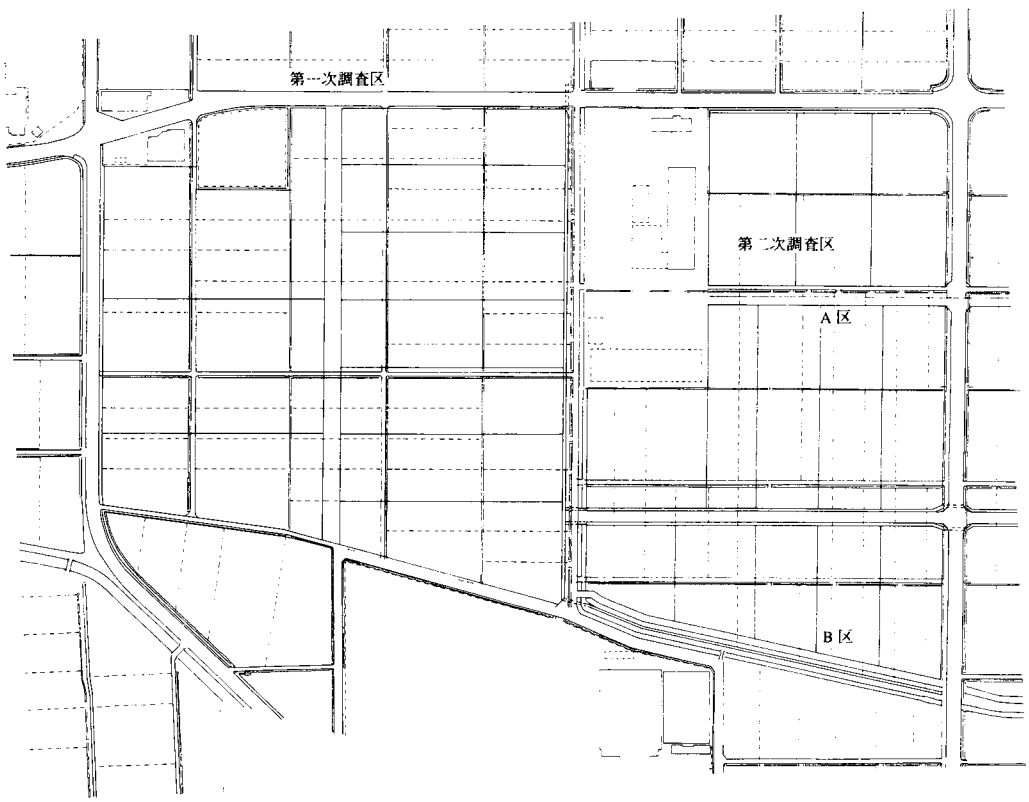
第４図　1987年第１次調査区実測図

A区

調査区幅は約2mで、南側から一地区10m単位で6区までを設定した（第6図）。調査面積は約120㎡である。遺構検出面は現地表から約80cm～120cmで、北側ほど深くなる。包含層状の堆積層は調査区全域を通して認められるが（7層・黒褐色粘質砂層）、遺物量は極めて少なく、器表面が磨耗した土師器片が数点みられただけである。また遺構は、溝状遺構・土坑・ピットが検出されたが、時期は不明である。5区以降の地山面は礫層になる。

B区

調査区は北星中学校の東側に隣接する。調査区幅は約3mで、南側から一地区10m単位で18区までを設定した（第7～11図）。調査面積は約520㎡である。A区と同様包含層状の堆積層は確認できるが（6層・黒褐色粘質土層）、遺物は1～2区にのみ集中する（第10図）。また遺構は16～18区で溝状遺構・ピットがわずかにみられる程度である（第11図）。遺物が集中するのは1～2区6層下の18層・明黄白色粘土層で、その多くが完形に復元される良好な資料である。ここでは18層を中心とする遺物群を上層とし、18層下の19～21層出土資料を下層として区別したが、両者ともに浅い落ち込み内に廃棄されたと推測される一括性の高い土器群である。時期的には弥生時代後期後半の標識資料として知られる、松任市法仏遺跡出土資料に併行するものと思われる。



第5図　中相川遺跡調査位置図

中相川87遺物観察表

図版番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(外面)	調整(内面)	色調	備考
1-1	P-28	甕	18.0			ヨコナデ、磨耗不明	ヨコナデ、ケズリ	にぶい橙色	口縁部外面に煤付着
1-2	P-3	甕	18.8			ヨコナデ、ハケのちミガキ	ミガキ、ケズリ	灰黄色	
1-3	P-16	甕	17.8			ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ、ハケのちケズリ	にぶい橙色	
1-4	P-14	甕	14.5	3.0	18.7	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ハケ、ケズリのちナデ	にぶい黄橙色	肩部を除いて口縁端部まで煤付着
1-5	P-30	甕	16.2			ヨコナデ	ヨコナデ、磨耗により不明	浅黄橙色	口縁部外面に煤付着
1-6	P-27	甕	14.8	3.0	15.9	ヨコナデ、ハケのちナデ	ヨコナデ、ケズリのちナデ	にぶい黄橙色	
1-7	P-21	甕	15.5	3.0	14.9	ハケ、ミガキ？	ケズリのち上半ヨコミガキ？	外はにぶい褐色、内はにぶい黄橙色	外面全面に煤付着
1-8	P-12	甕	16.3	4.2	23.0	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙色	体部上半部から口縁端部まで煤付着、肩部に黒斑
2-9	P-26	甕	18.0	4.1	25.2	ヨコナデ、ハケ	ケズリ	にぶい黄橙色	底部付近を除き口縁端部まで煤付着
2-10	P-28	甕	17.0	2.7	23.9	ヨコナデ、ハケのちナデ	ケズリ、磨耗により不明	外は灰黄色、内は浅黄色	底部と肩部付近を除き口縁端部まで煤付着
2-11	P-33	甕	17.6	4.6	29.9	ハケ	ケズリ	外はにぶい黄橙色、内は浅黄色	体部下半部を除いて口縁端部まで煤付着、肩部の刻みは簾状文風
2-12	P-19	甕	21.0			ヨコナデ、ハケのちナデ	ヨコナデ、ケズリのちナデ	淡黄色	体部中半に煤付着・黒斑
3-13	P-7	壺	12.8			ハケ、ヨコナデ	ヨコハケ、口縁部ヨコミガキ	にぶい黄橙色	
3-14	P-20	壺	13.4			ヨコナデ、ハケ	磨耗により不明	淡黄色	頸部に煤付着
3-15	P-13	壺	13.9	3.2	26.5	ヨコナデのちハケ、ハケ	ヨコナデ、ケズリ	外は淡黄色、内は浅黄色	体部下半に黒斑
3-16	P-30	壺	13.2			タテハケ	ヨコケズリ	灰白色	
3-17	P-29	壺	10.4	3.4	21.9	ヨコナデ、ハケのち一部ナデ	ハケ、ケズリ	にぶい黄橙色	体部中半に帯状に煤付着
3-18	P-15	壺	13.9	4.1	28.9	ハケのちヨコナデ、ハケ	磨耗により不明、ケズリのちナデ	にぶい黄橙色	肩部にボタン状の貼付文2個、体部下半に黒斑

中相川87遺物観察表

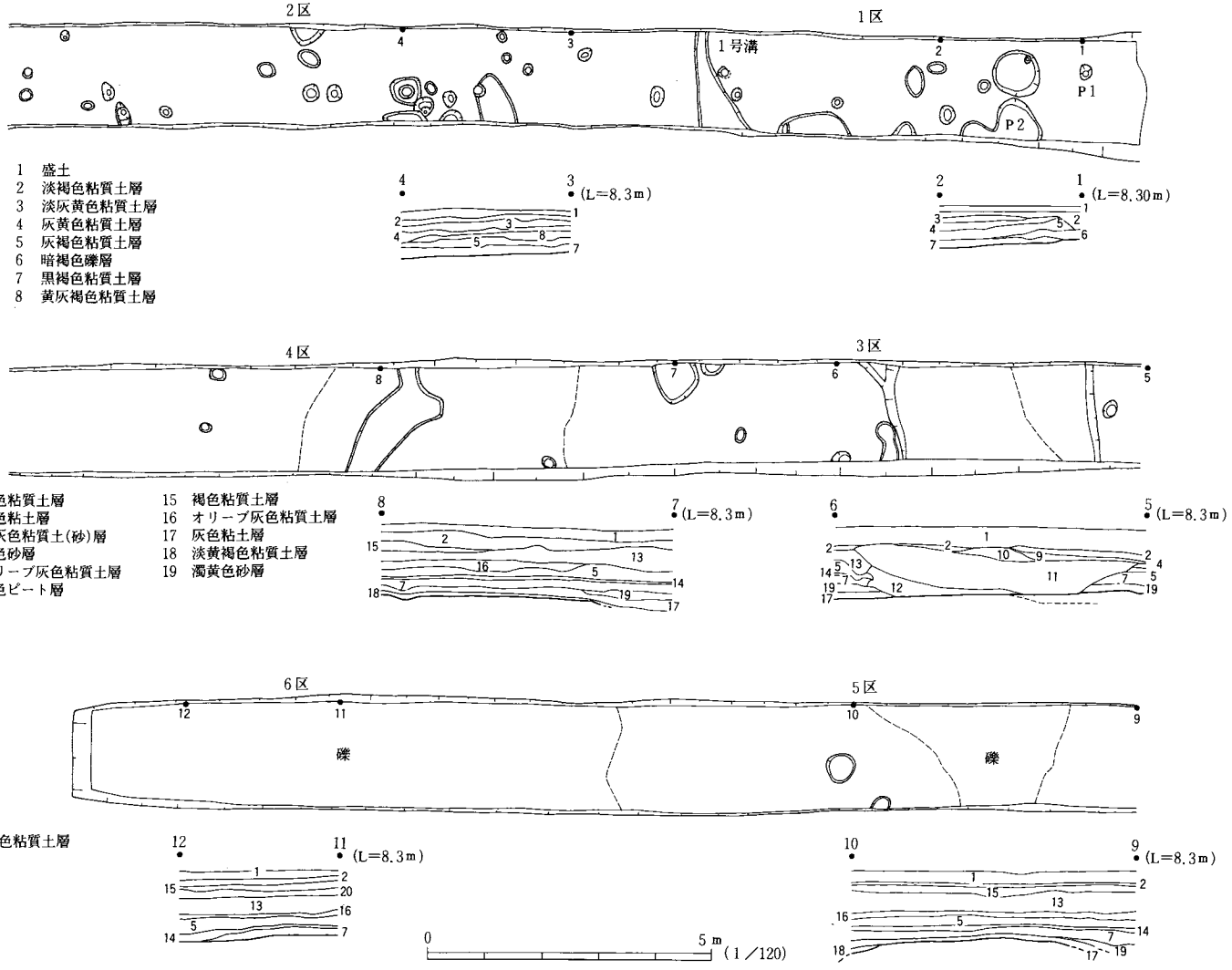
図版番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(外面)	調整(内面)	色調	備考
4-19	P-24	壺	16.8			タテハケ、ヨコナデ	ヨコナデ	外はにぶい橙色、内はにぶい黄橙色	
4-20	P-31	壺	19.0	5.0	33.2	ハケのちヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、指押え、ケズリ	にぶい黄橙色	口縁部に貼付文6ヵ所
4-21	P-22	壺	17.3			ヨコナデ	ヨコナデのち雑なミガキ	にぶい黄橙色	頸部に2個一組の紐通し穴？1対
4-22	P-11	台付壺	11.6	6.6	14.2	ミガキ、ヨコナデ	ミガキ、ケズリのちナデ	にぶい黄橙色	頸部に2個一組の紐通し穴1対、脚部内外面に煤状のもの付着
4-23	P-21	台付壺		12.0		ヨコナデ、ハケのちミガキ	磨耗により不明、ケズリのちナデ	にぶい黄橙色	
4-24	P-17	台付壺	20.6	10.9	22.5	ヨコナデ、ハケのちミガキ・ナデ	ヨコナデ、ハケのちナデ、ケズリのちナデ	外はにぶい橙色、内は灰黄色	肩部に黒斑
5-25	P-5	高坏	22.0			ヘラミガキ	ヘラミガキ	灰白色	タテに磨いたのちヨコに磨き
5-26	P-18	高坏	22.0	14.8	17.4	ヘラミガキ	坏部ミガキ、脚部ナデ・ミガキ	にぶい黄橙色	脚裾部外面に赤彩残る
5-27	P-24	器台		18.2	11.1	磨耗により不明	ケズリ、磨耗により不明	浅黄橙色	しぼり目見える
5-28	P-6	高坏				ヘラミガキ	ヘラミガキ	灰白色	
5-29	P-10	器台？				ミガキ	ヨコハケ後ヨコナデ、ケズリ	灰白色	透し（形、個数不明）
5-30	P-7	鉢	14.6	3.1	6.3	ヨコナデ、ミガキ	ケズリのちミガキ、ミガキ	にぶい黄橙色	
5-31	P-32	鉢	13.5	3.1	9.3	ミガキ、ケズリ	ミガキ	にぶい黄橙色	把手が一つ付く
5-32	P-28	甕		4.6		ハケのちナデ	ケズリ、ケズリのちナデ	外は黒褐色、内は褐灰色	煤付着、1-1と同一個体か
5-33	P-20	壺		5.7		ハケ	磨耗により不明	淡黄色	底部外面にヘラ記号「×」、3-14と同一個体か
5-34	P-3	甕(壺?)		5.8		ハケのちミガキ	ケズリのちナデ	灰黄色	
5-35	P-22	壺		8.0		ハケのちミガキ	ケズリのちナデ	にぶい黄橙色	底部付近に黒斑、4-21と同一個体か
6-1	1区 P-50・54	甕	17.2			ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ケズリのちナデ	にぶい黄橙色	肩部を除き煤付着

中相川87遺物観察表

図版番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(外面)	調整(内面)	色調	備考
6-2	1区 P-48～51、白粘土	甕	15.0	4.7	25.2	ヨコナデ、ハケ	ヨコハケ後ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙色	体部下半に煤付着、体部中半黒斑、内面下半に炭化物付着
6-3	1区 P-58	甕	17.2	4.0	25.2	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ケズリ	外は暗褐色、内は灰黄褐色	口縁端部まで厚く煤が付着
6-4	1区 P-48	甕	15.0			ヨコナデ、磨耗により不明	磨耗により不明、ケズリのちナデ	浅黄橙色	
6-5	1区 P-44・45	甕	15.8	3.8	16.0	ヨコナデ、ハケのちミガキ	ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙色	肩部を除き口縁端部まで煤付着、内面体部下半に黒斑
6-6	1区 P-54、P-36、1・2区白粘土	甕	17.6			ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ケズリのちナデ	にぶい橙色	
6-7	1区 P-50	甕	16.5			ヨコナデ、ハケのちナデ	ヨコナデ、ケズリ、ケズリのちナデ	にぶい橙色	口縁部に煤付着
7-8	1区 P-51	甕	16.2			ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ケズリ	にぶい黄橙色	口縁端部まで煤付着、刻みと擬凹線は同一工具か
7-9	1区 P-58、白粘土	甕	18.0			ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ナデ、ケズリ	にぶい黄橙色	口縁端部まで煤付着
7-10	1区 P-43	甕	15.8	4.2	24.5	ヨコナデ、ハケのちナデ	ヨコナデ、ケズリ、ケズリのちナデ	にぶい黄橙色	口縁端部まで煤付着
7-11	P-35・36	甕	17.6	5.5	30.0	ハケのちヨコナデ、タテハケ	ヨコナデ、ケズリ	灰黄色	体部下半に煤付着、内面下半に炭化物付着
7-12	1区 P-42	甕		5.1		タテハケ	ケズリ	外はにぶい褐色、内はにぶい橙色	煤付着、内面下半に炭化物付着
8-13	1区 P-52 1・2区白粘土	壺	15.8			ヨコナデ、ミガキ	ミガキ、ナデ、ケズリのちナデ	にぶい黄橙色	体部下半に煤付着
8-14	1区 P-44	甕	17.0	4.0	23.7	ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、ケズリ	浅黄橙色	体部中半から下半に煤付着
8-15	1区 P-36、1・2区	甕	17.1	4.2	20.1	ヨコナデ、ハケ	ミガキ、ケズリ	外はにぶい黄橙色・灰白色、内はにぶい黄橙色	体部付近を除いて口縁端部まで煤付着、内面下半に炭化物付着
8-16	1区 P-39	壺？	17.0			ヨコナデ、タテハケ	ヨコナデ、ケズリ	灰白色	
8-17	1区 P-56、3区6層の下段	台付壺	9.0			ミガキ	ミガキ、ケズリ	淡黄色	口縁部から体部中央にかけて黒斑
8-18	P-46	甕		4.6		ハケ、ナデ	ケズリのちナデ	灰黄色	

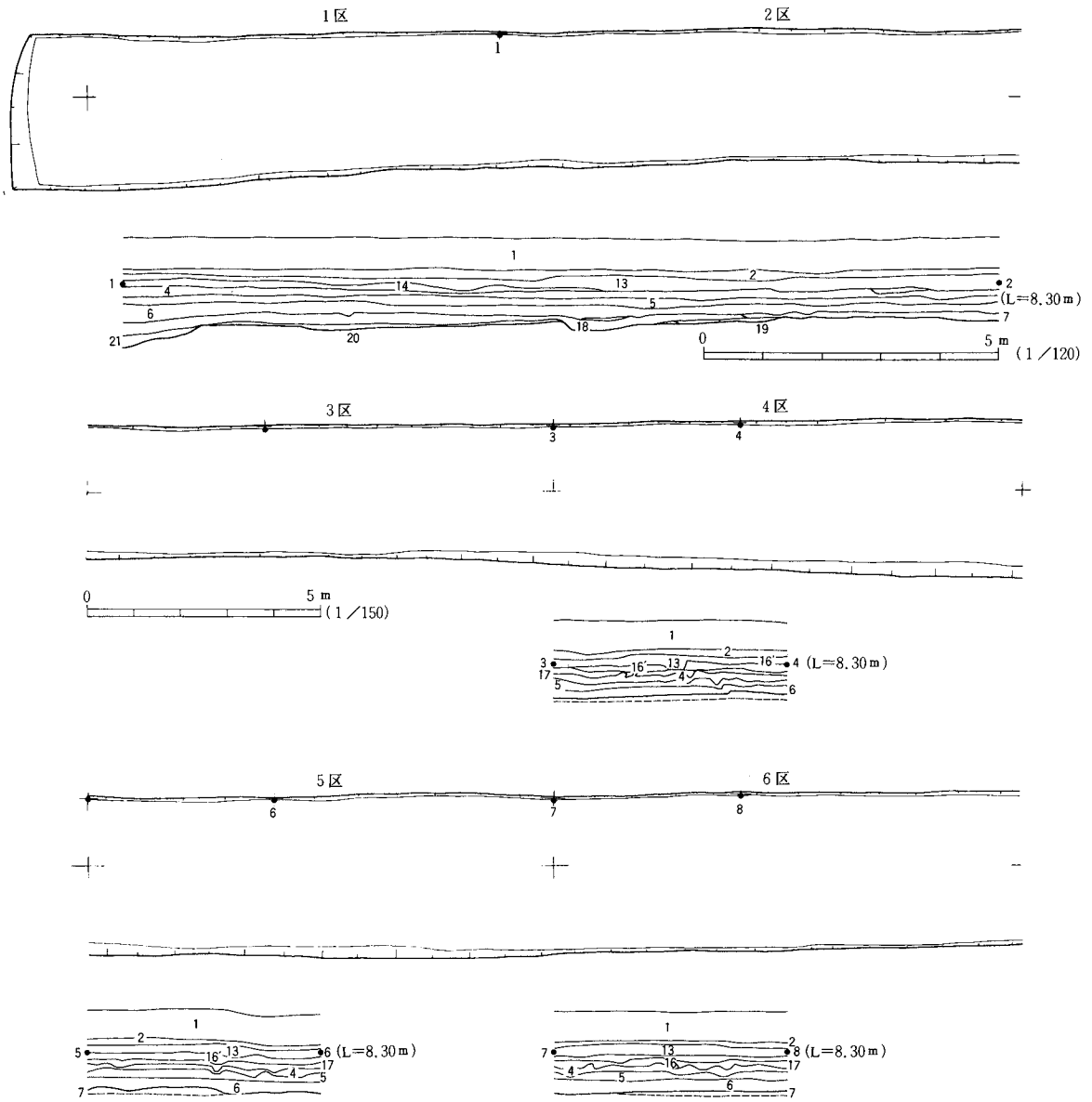
中相川87遺物観察表

図版番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(外面)	調整(内面)	色調	備考
8-19	1区 P-54、P-36、1・2区白粘土層	甕		4.0		ハケのちナデ	ケズリ、ナデ	にぶい橙色	内面にヨコレ、6-6と同一個体か
9-1	14区南側トレンチ(一見地山土下の暗褐色)	甕	13.9			ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	外は褐灰色、にぶい褐色、内は褐灰色、にぶい黄橙色	
9-2	2区 D	甕	14.5			ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	灰白色	口縁部煤付着
9-3	表採	甕	17.0			ヨコナデ、みがき	ヨコナデ後粗いミガキ、ヨコナデ	ヨコナデ後粗ミガキ、ケズリ	
9-4	2区 E	甕	17.6			ヨコナデ、ハケ	ヨコハケ後ヨコナデ、ケズリ	灰白色	
9-5	1・2区包含層	甕	18.8			ヨコナデ、ヨコハケ後タテハケ	ヨコハケ後ヨコナデ、ケズリ	灰白色	口縁端部まで煤付着
9-6	1区白粘土	鉢	19.2			ミガキ？	ヘラミガキ	灰白色	黒斑
9-7	2区 F	壺				ヘラミガキ、ヨコナデ	ヘラケズリ後ナデ？	灰白色	円形スタンプ文
9-8	2区 D	壺	14.0			タテミガキ	ヨコハケ後ヨコナデ	灰白色	
9-9	1区	壺	16.0			磨耗により不明(ミガキ？)	ヨコナデ	にぶい黄橙色	外面赤彩
9-10	3区 6層の下の層	壺	22.3			ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色	貼付個数不明
9-11	1・2区包含層	高坏				ミガキ	ヘラケズリ	浅黄橙色	
9-12	表採	高坏		10.7		ヘラミガキ	ナデ、ハケ	灰白色	
9-13	表採	台付鉢？				ミガキ	ナデ	灰白色	
9-14	2区 E	甕		3.8		磨耗により不明	ケズリ	灰白色	9-4と同一個体か
9-15	2区 D	甕					ナデ	黒褐色	天王山式、9-17と同一個体か、内面煤付着
9-16	2区 D	甕				ナデ	ナデ	灰黄褐色	口縁端部まで煤付着
9-17	2区 F	甕				沈線文	ナデ	外は灰褐色、内は黒褐色	天王山式、9-15と同一個体か、内面に煤付着
9-18	1・2区	石							軽石、最大長4.90、最大幅4.30、最大厚1.76、重量12.8



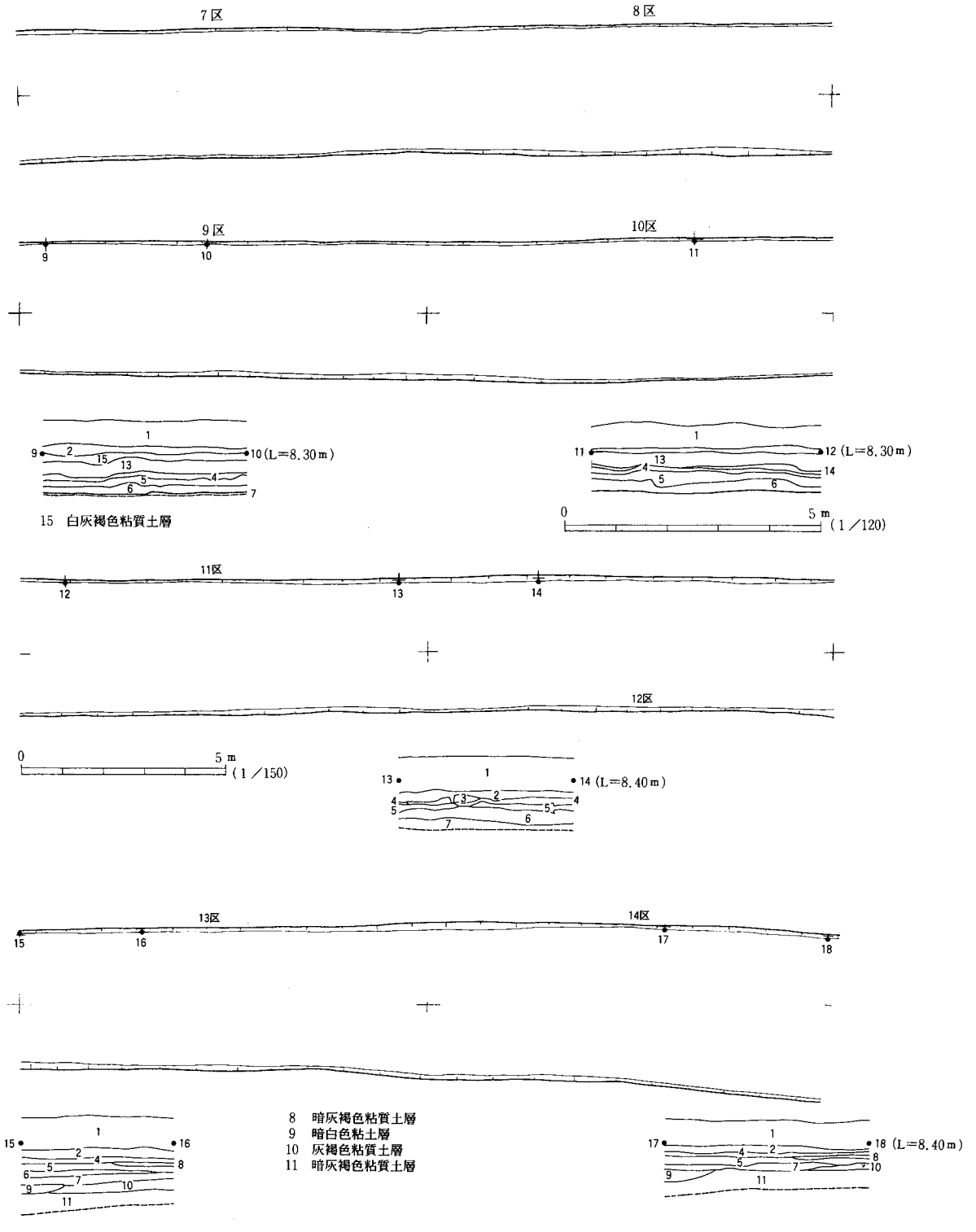
1 盛土
2 淡褐色粘質土層
3 淡灰黄色粘質土層
4 灰黄色粘質土層
5 灰褐色粘質土層
6 暗褐色礫層
7 黒褐色粘質土層
8 黄灰褐色粘質土層
9 黒褐色粘質土層
10 淡灰色粘土層
11 淡黄灰色粘質土(砂)層
12 淡黄色砂層
13 淡オリーブ灰色粘質土層
14 暗褐色ピート層
15 褐色粘質土層
16 オリーブ灰色粘質土層
17 灰色粘土層
18 淡黄褐色粘質土層
19 濁黄色砂層
20 灰褐色粘質土層

第6図　A区平面・土層断面実測図(1／120)

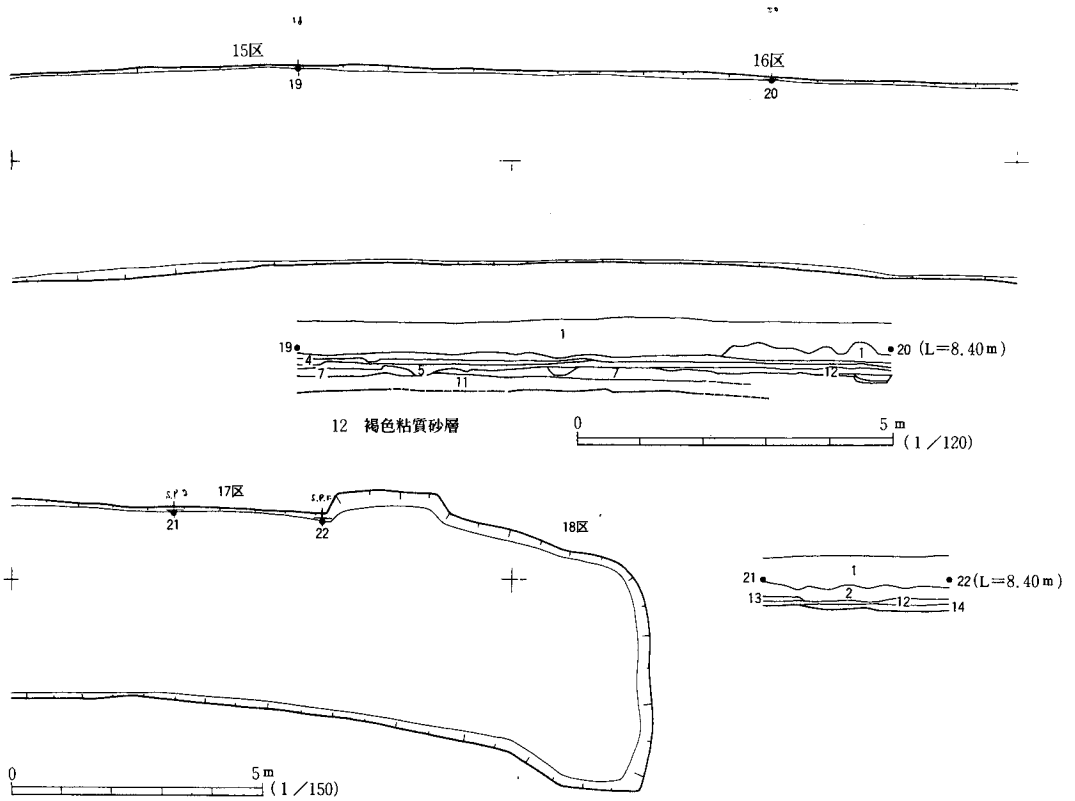


1 盛土
2 黄灰褐色砂質粘土層
4 黒色粘質土層
5 灰色粘質土層
6 黒褐色粘質土層
7 白色粘土層
13 灰褐色粘質砂層
14 濁褐色粘質土層
16 白黄灰色粘質砂層
16′ 明灰褐色粘質砂層
17 灰褐色粘質砂層
18 明黄白色粘土層（土器含）
19 18に炭化物多量混入（土器含）
20 淡灰褐色粘質砂層（土器含）
21 20に18ブロック混入（土器含）

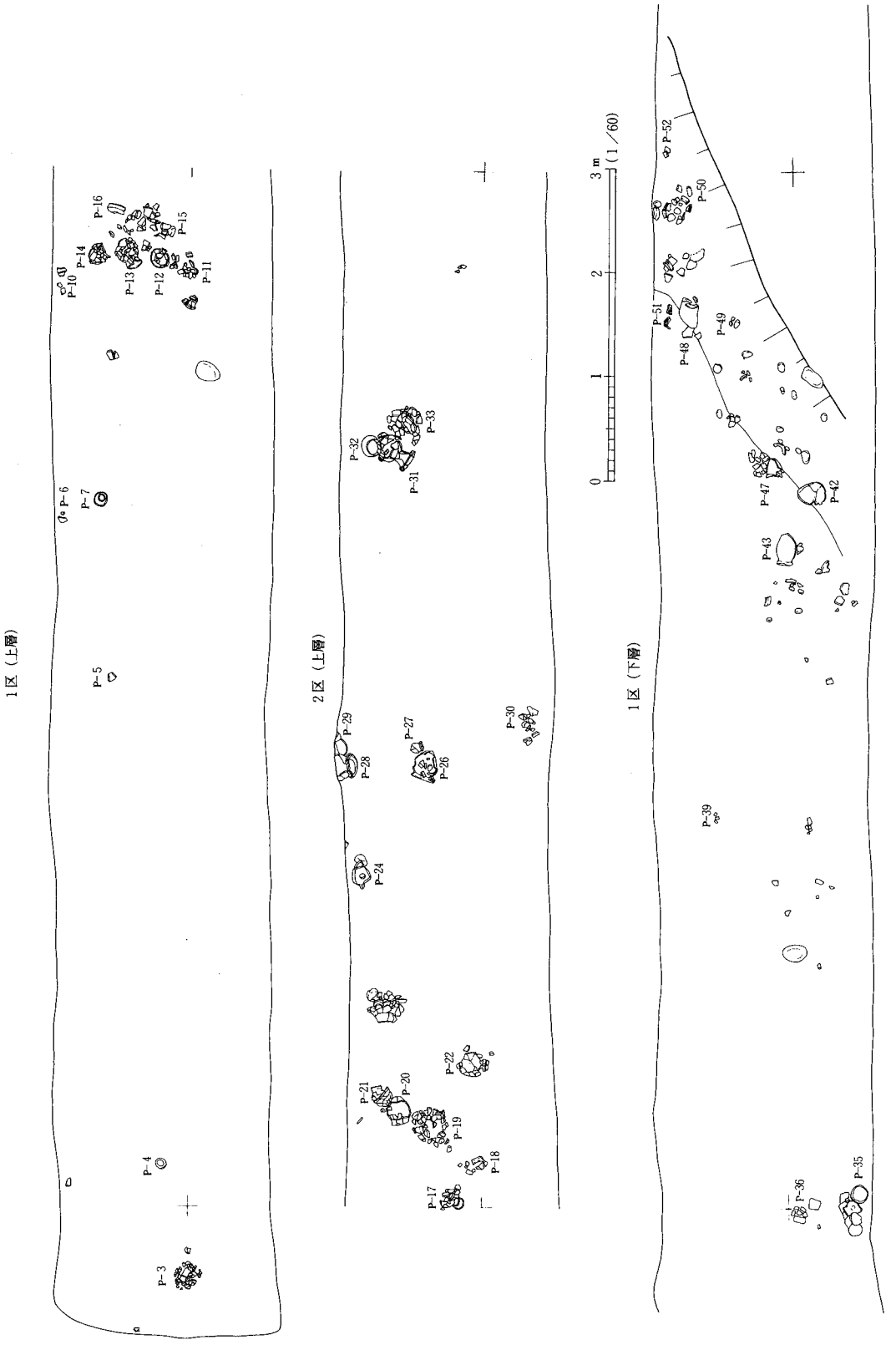
第7図　B区平面(1／150)・土層断面(1／120)実測図(1)



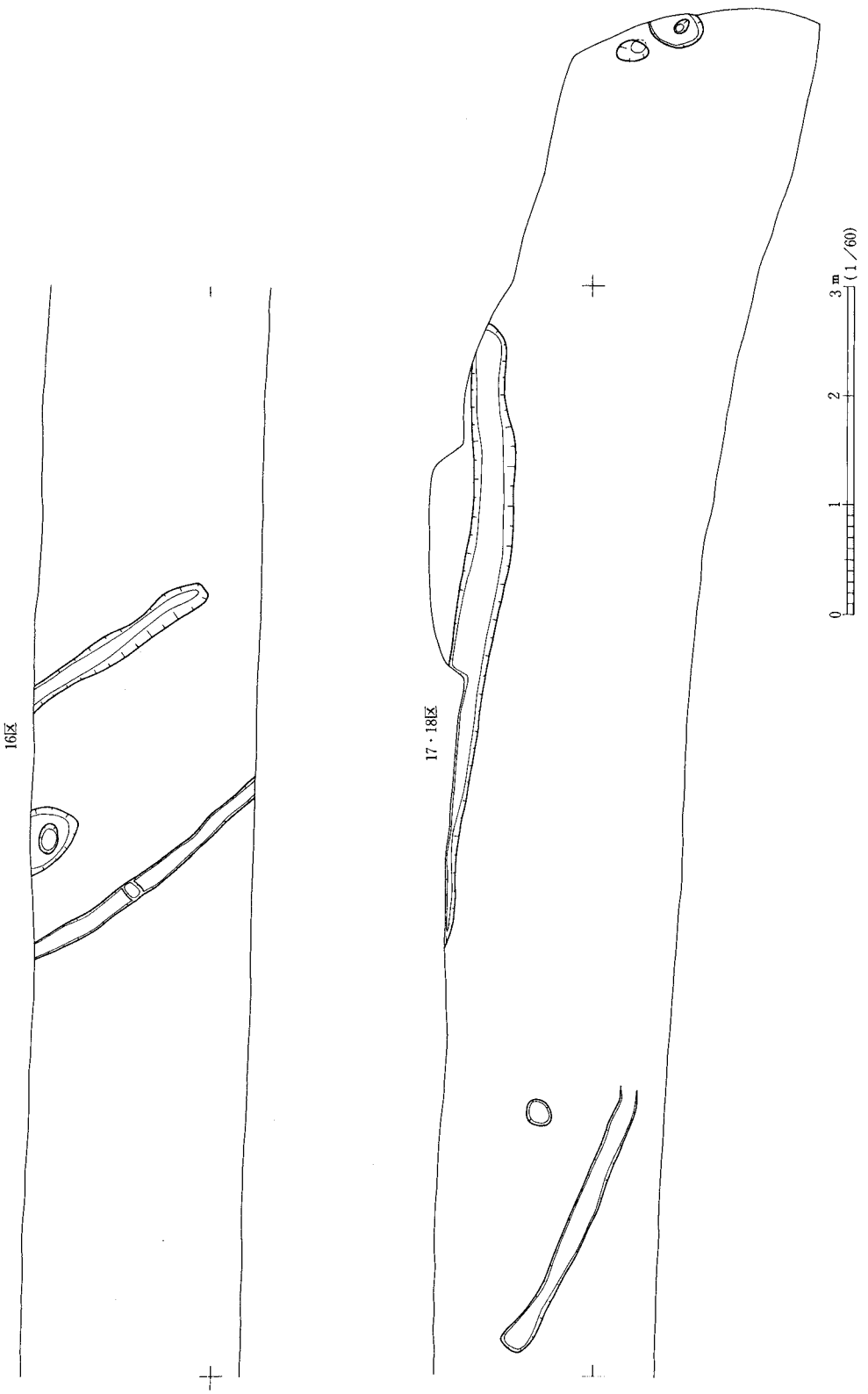
第8図　B区平面(1／150)・土層断面(1／120) 実測図(2)



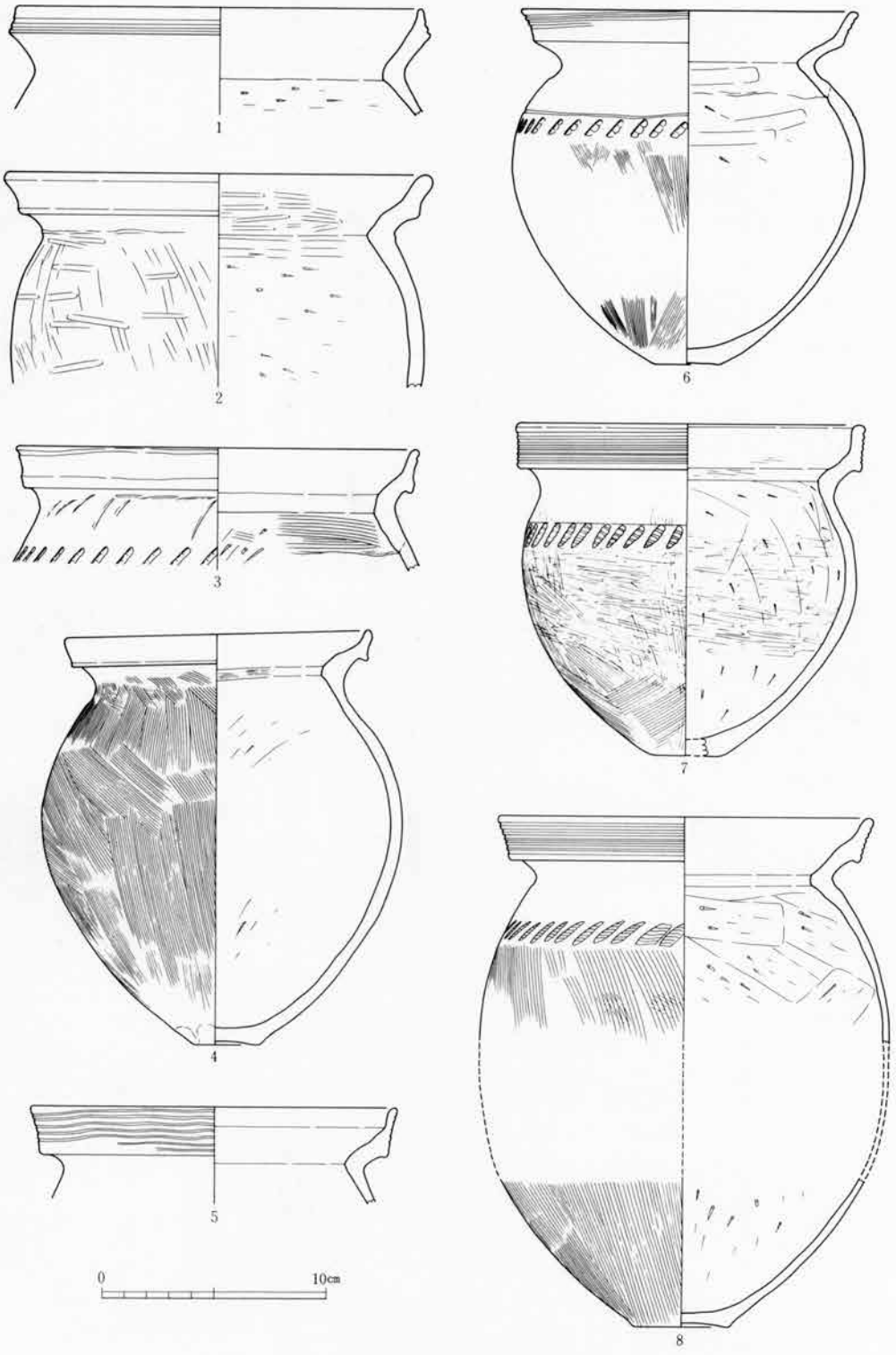
第9図　B区平面(1／150)・土層断面(1／120)実測図(3)



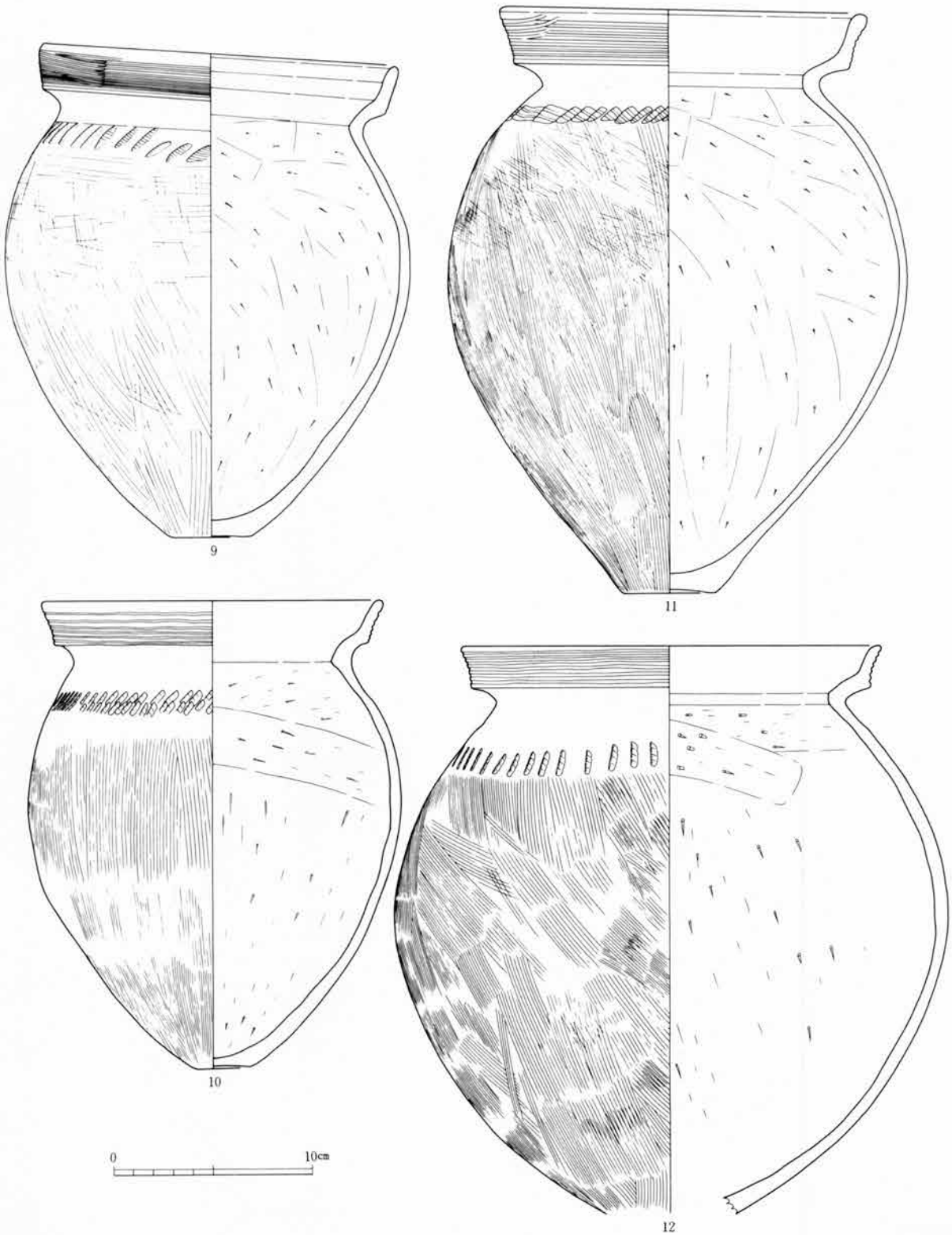
第10図　B－1～2区（上層・下層）出土遺物平面図（1／60）



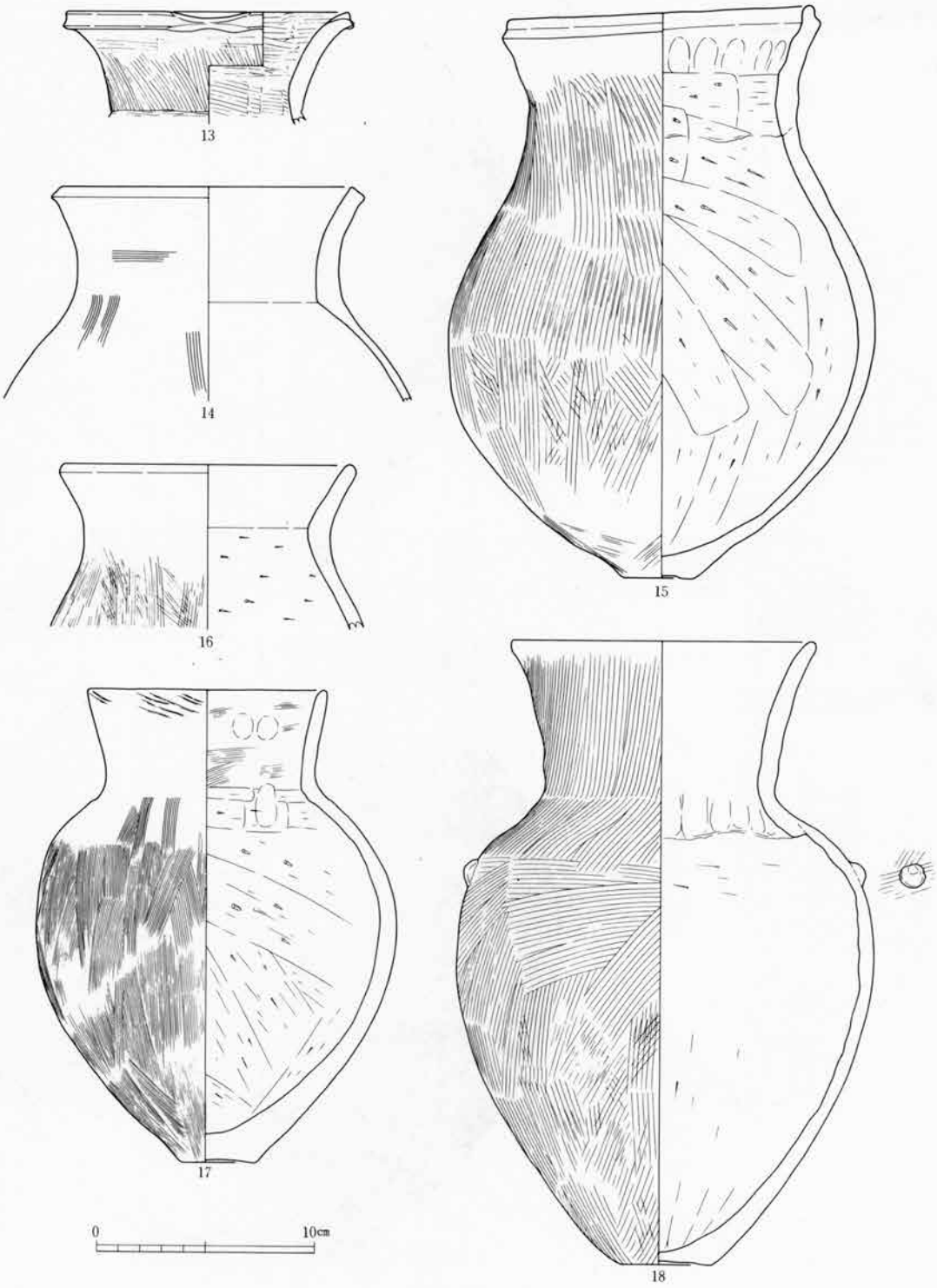
第11図　B－16～18区遺構平面図(1／60)



第12図　B－1～2区(上層)遺物実測図(1／3)



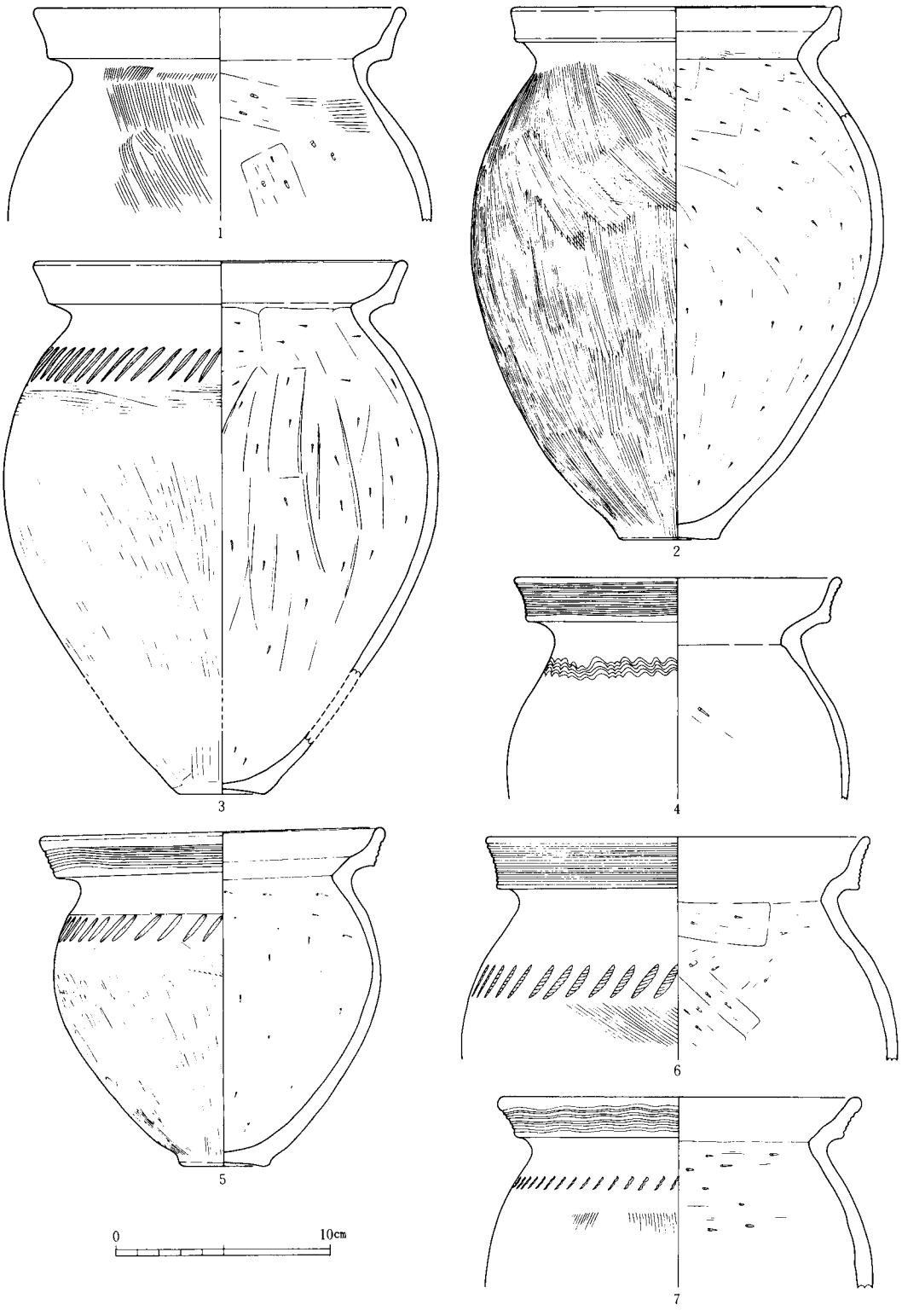
第13図　B－1～2区(上層)遺物実測図(1／3)



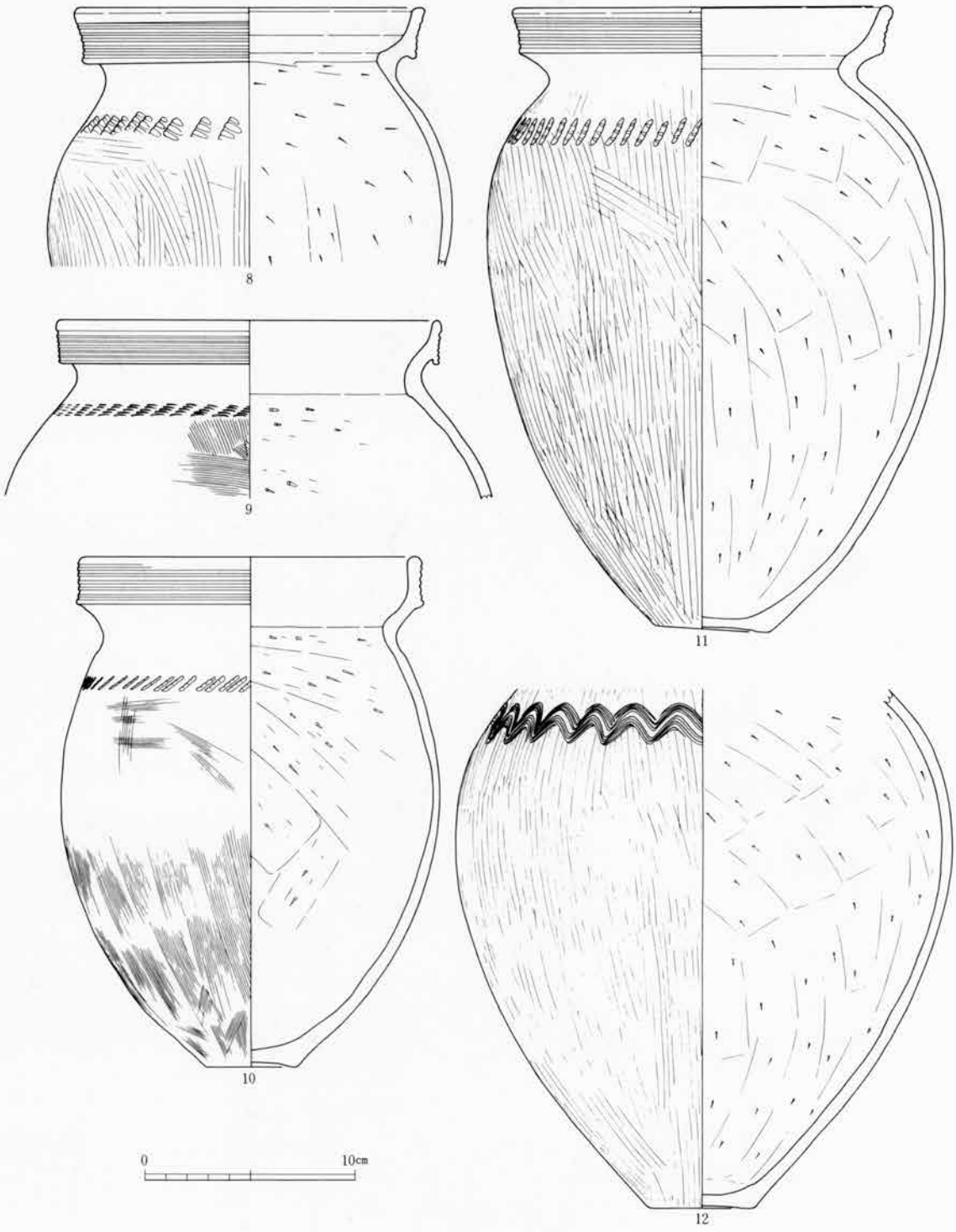
第14図　B－1～2区(上層)遺物実測図(1／3)

第15図　B－1～2区(上層)遺物実測図(1／3)

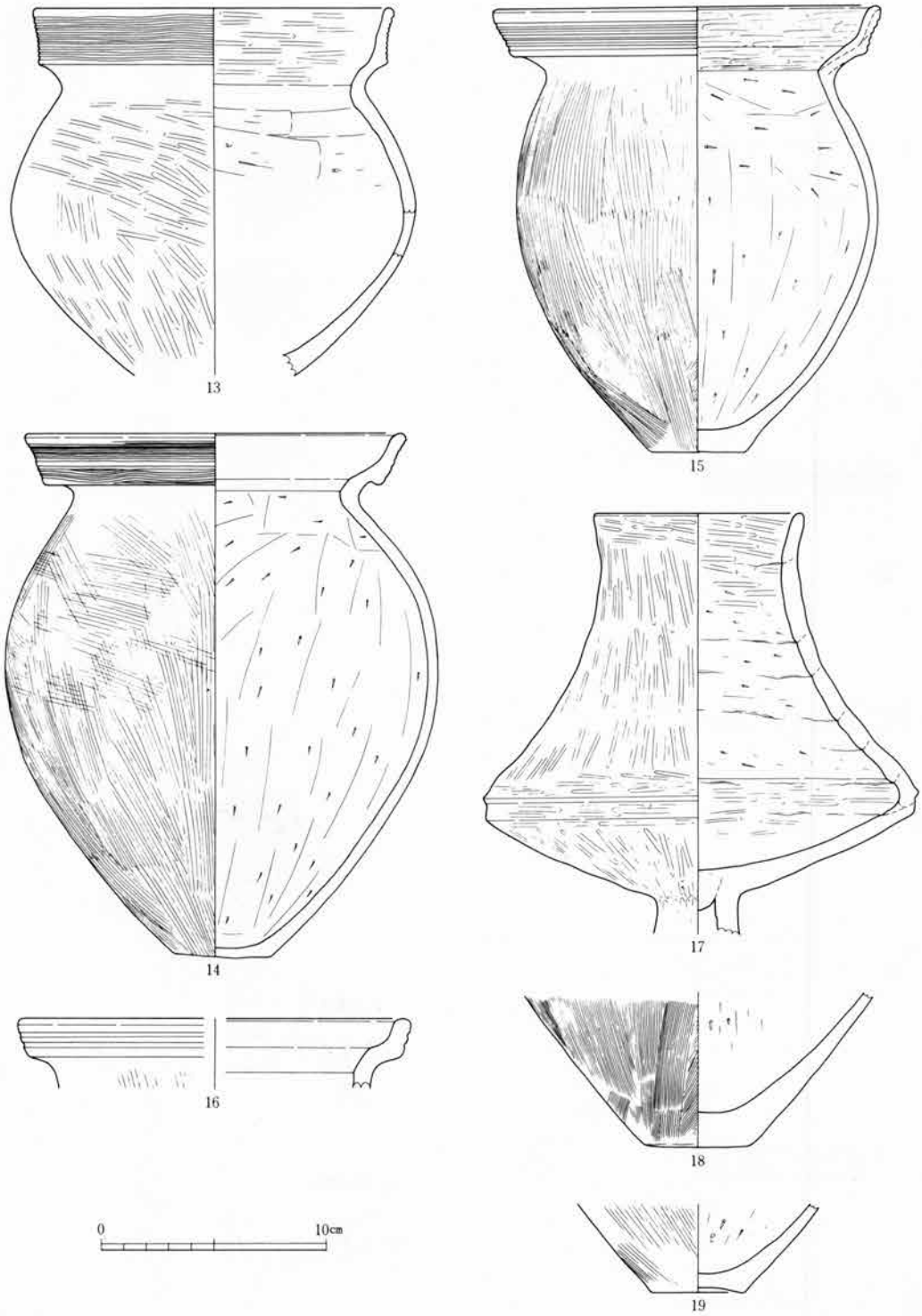
第16図　B－1～2区(上層)遺物実測図(1／3)



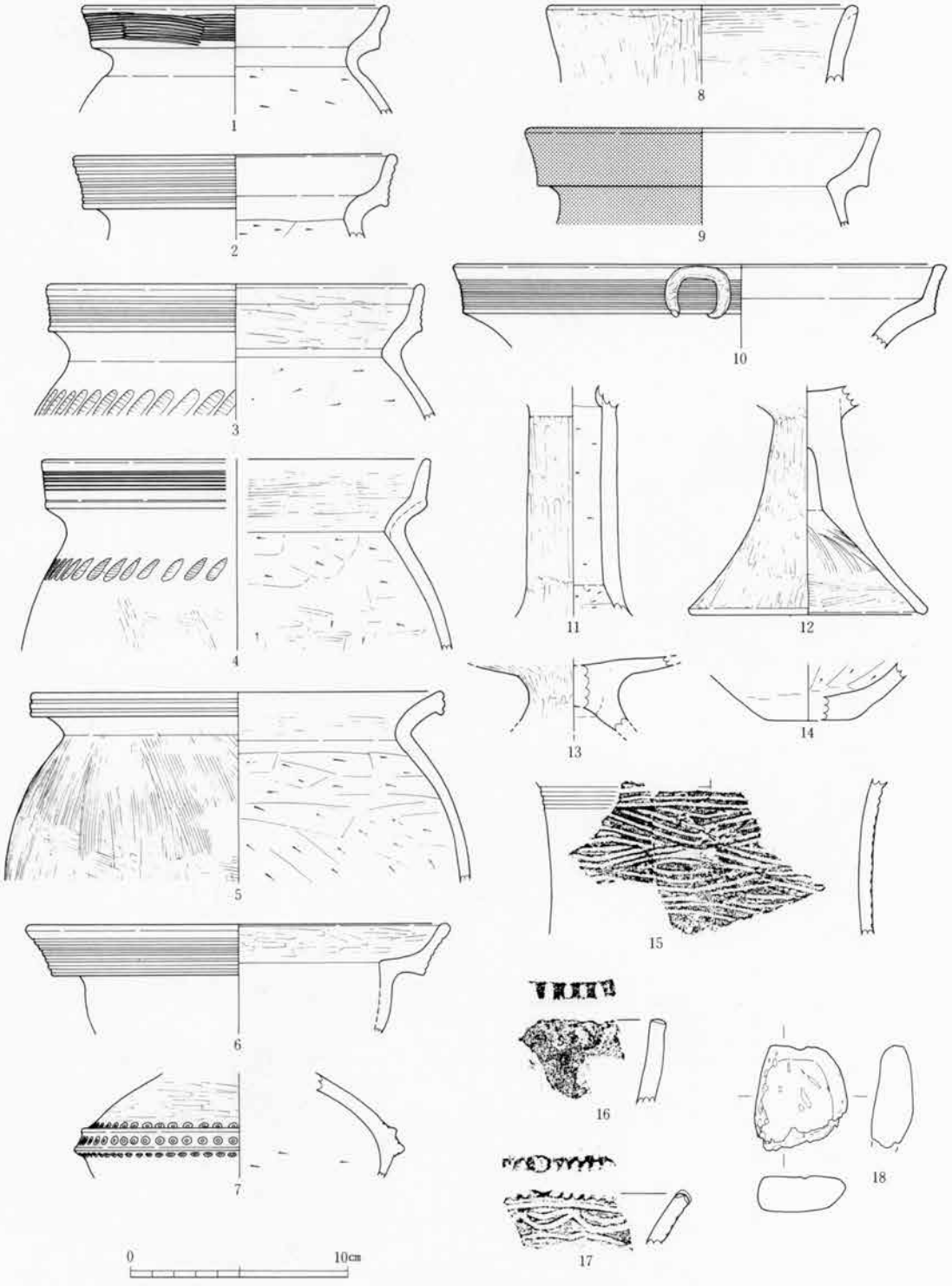
第17図　B－1区(下層)遺物実測図(1／3)



第18図　B－1区(下層)遺物実測図(1／3)



第19図　B－1区(下層)遺物実測図(1／3)



第20図　B－1区(下層)遺物実測図(1／3)

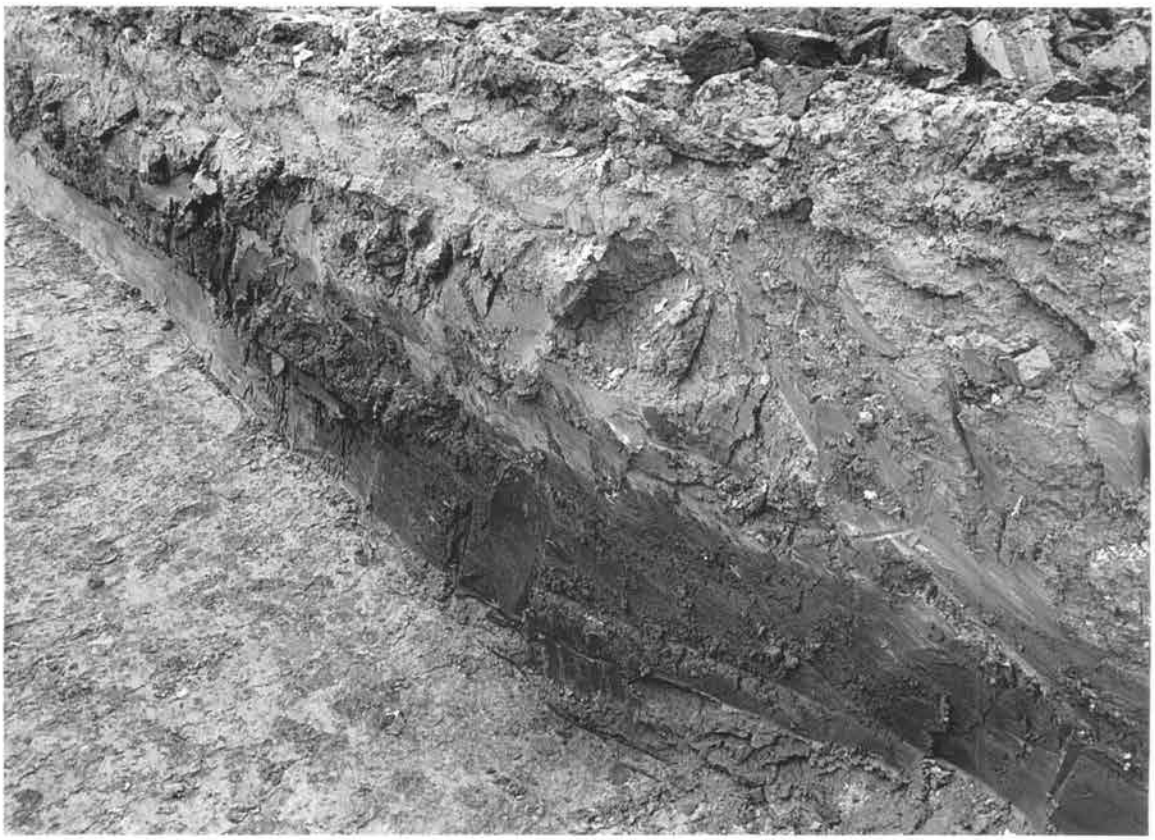
図　　版

1950年代の中相川周辺航空写真

調査区掘削作業

調査区掘削完了

SD02（北から）



SD02の土層

SD03遠望（北から）

SD03（北から）

SD04（北から）

調査区の北端遺構群

表土除去作業（A区）

3区遺構掘り下げ作業（A区）

土層断面実測および遺構検出作業（A区）

完掘状況（A区）

1区完掘状況（A区）

3区完掘状況（A区）

表土除去作業（B区）

17・18区遺構検出作業（B区）

15～17区完掘状況（B区）

1～14区完掘状況（B区）

2区（上層）遺物出土状況（B区）

2区（上層）遺物検出作業（B区）

1区（上層）遺物検出作業（B区）

1・2区（上層）遺物出土状況（B区）

1区（上層）遺物出土状況（B区）

1区（上層）遺物取り上げ作業（B区）

1区（下層）遺物出土状況（B区）

1区（下層）遺物出土状況（B区）

報告書抄録

ふりがな	いしかわけん　まっとうし　なかそうご　いせき
書名	石川県松任市中相川遺跡
編著者名	小嶋芳孝　藤田邦雄
編集機関	石川県立埋蔵文化財センター
所在地	〒921　石川県金沢市米泉４丁目133番地　TEL076－243－7692
発行年月日	1998年１月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
なかそうごいせき 中相川遺跡	いしかわけんまっとうし 石川県松任市 なかそうご 中相川	17028	——	36° 35' 40"	136° 50'	19870728 ～ 19871029	800	県営ほ場 整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中相川遺跡	集落	弥生時代	溝、小穴	土器片	

石川県松任市中相川遺跡

１９９８年１月30日

編集・発行　石川県立埋蔵文化財センター
〒921　金沢市米泉４丁目133番地
TEL（076）243－7692

印　　刷　能登印刷株式会社
〒920　金沢市武蔵町７番10号
TEL（076）233－2550